

# 平成28年度 校区外部評価 自己評価表（最終まとめ）

学校名 東海中学校

## 【学校評価表の作成および評価に当たっての留意事項】

○各学校では、それぞれの項目ごとに「本校の基本的な考え方」を記入してください。  
各学校で評価指標を設定してください。その際は、各学校の重点的な取組と関連させて評価指標を設定をしてください。なお、必要に応じて行を増やしていただいてもかまいません。

○校区外部評価委員による外部評価委員会が開催される前に、学校は、自己評価結果（取り組みの状況や変化等）について、必ず説明をしてください。（校区外部評価委員は、その説明と実際に自分が見た学校の状況等により、評価します。）

## 【校区外部評価委員の皆様へ】

☆評価をする際には、実際に授業等を見た内容だけでなく、学校が説明した内容、聞き取った内容も十分に参考にしてください。従いまして、評価のために必要と思われる情報や資料につきましては、遠慮なく学校に御請求くださいますようお願いいたします。

## 評価項目1 基礎学力の定着

本校の基本的な考え方		◎本校の学力のとらえ方 基礎学力を十分に身に付けさせるために「できる授業」「わかる授業」を進め、確かな学力を身に付けさせる学習指導の徹底 ◎28年度の実践内容 ①PDCAサイクルによる授業改善(特にCAに重点を置く) ②緻密な年間指導計画の策定、各教科基礎基本の習得の徹底 ③生徒が自主的・主体的に取り組む魅力ある授業づくり ④個に応じた指導の充実(足踏みしている生徒には基礎基本を分かりやすく指導し、理解の早い生徒には発展的な指導を充実させる) ⑤学力の基礎となる語彙力の向上を図るために読書活動を年間計画に位置付ける。 ⑥英語検定・数学検定・漢字検定等へのチャレンジを奨励し、ステップアップにつなげる。			
評価指標	上段:取組指標	学校による自己評価		校区外部評価委員による評価	次年度に向けた校長の態度表明
	下段:成果指標	評価	評価の説明	自己評価に対するコメント	
①	・共通理解のもと指導を適切に行う。 ・PDCAの特にCAを工夫実践している。	A	・チャイム着席は徹底されている。 ・生徒理解の深化と授業規律の共通理解のもと指導を適切に行い、学年によって若干の差異はあるが、概ね生徒の学習・授業規律はよくなっている。 ・学校としての教育目標が一人一人の教員に徹底され、授業規律等における指導が組織として機能してきた。 ・PDCAについては更なる工夫が必要である。	・実際に授業中の教室を参観させてもらい、授業規律はどの学年も、どの授業もしっかりと整っていることがよく分かりました。	・チャイム着席の徹底を継続する。 ・学習・授業規律を更に確立する。 ・学習準備の指導を継続する。 ・自らの授業のチェック機能を高める。
	チャイム着席、学習準備(忘れ物防止)等、学習・授業規律が徹底している。	A			
②	・個に応じた学力が身に付く授業の工夫・改善に取り組む。 ・各調査の確実なる実施と考察。 WATの学力検査、都学力調査、全国学力調査の結果が昨年よりも向上し、かつ全国平均よりも上回る。	A	・WAT学力調査、全国学力、都学力定着度テスト、区学力定着度テストを確実に実施、結果を分析した。 ・生徒の傾向を把握しながら指導方法の改善に結びつけている教員の姿勢が日々見られた。 ・社会と理科では目標値に達せず、特に、理科は課題を残した。他の教科はほぼ充足している。	・定着度の低い生徒への対応とともに定着度の高い生徒への発展的な指導も考えられている所がとても良いと思えました。 ・理科と社会が目標値に達することができなかったとあるが、来年度に向けての理科と社会の授業改善はどのようにしていくのか。	・数学・英語を中心に個の学力の差異を適切に把握した授業を展開する。 ・理科や社会を中心に学力検査等の結果分析を的確に実施する。
		B			
③	・英検、漢検、数検を計画的・効率的に実施する。 ・検定後の振り返りを確実に実施する。 ・各種検定試験について、中学校卒業時までには各種3級以上の取得目標に達成できたか。	A	・3種検定に受検者は増加傾向にある。 ・英検は1級1名を輩出した。1～5級までで96人漢検では2～10級までで148人、数検では準2～11級までで44人が取得した。 ・振り返りの時間の確保が課題である。 ・上記の結果を受けて、次年度は放課後に英検受験講座を開講することがプラン21にて認められた。	・級を取得した生徒数を挙げるだけでなく昨年度の人数と比較した割合も提示してほしい。 ・各種検定試験について、中学校卒業時までには各種3級以上の取得を目標に掲げているが、東海中学校としての各学年の目標値はどのように設定しているのか。	・検定受検者・合格者の割合を経年比較していく。 ・各種検定の価値を十分生徒に伝え、受検者を増やす。 ・合格、不合格にかかわらず、誤答分析を通して学力の定着に努める。
		B			

A=よく当てはまる B=概ね当てはまる C=どちらかという当てはまらない D=当てはまらない

## 評価項目2 社会性・人間性の育成

本校の基本的な考え方		◎時と場をわきまえた態度、行動、礼儀、言葉づかいのできる生徒の育成 ◎心のよい生徒 (思いやりの心・うそをつかない心・骨身を惜しまず努力する心)			
評価指標	上段:取組指標	学校による自己評価		校区外部評価委員による評価	次年度に向けた校長の態度表明
	下段:成果指標	評価	評価の説明	自己評価に対するコメント	
①	・各学年は、市民科の授業を計画的に継続して実施する。 ・様々な機会を通して、その必要性を訴える。 ・時と場をわきまえた態度、行動、礼儀、言葉づかいに関して90%以上の生徒が肯定的に評価し、行動化する。	A	・各学年・学級ともに年間計画に沿って市民科授業を実施している。 ・「礼法・作法」の伝達する式を設け、上級生から新入生への伝達が徹底している。 ・儀式や朝礼等の集会で、意識を高めている。	・市民科の説明を聞いて社会性・人間性の育成に市民科の授業が大きな役割を果たしていることがよく分かりました。 ・下段の成果指標の評価がBになっているが生徒の様子を見ているとAではないのか。 ・道徳が教科化されるのに伴い、市民科はどのように対応するのか。	・市民科のみならず、すべての教育活動で、時と場をわきまえた生徒の育成を意識する。 ・挨拶の励行を強化する。 ・道徳については区の指導を待つ。
		B	・高学年になるにつれ基本的な礼儀作法の必要性や大切さを理解し大人としての常識的なマナーを身に付けている。 ・廊下での生徒の挨拶する場面が増えた。		
②	・生活アンケート、生活ノートを活用する。・SCと連携を強化し、教職員が生徒の情報交換を密にし、組織的な体制で臨む。 ・いじめは重大な人権侵害であることを理解させ、いじめゼロを徹底する。また、差別は絶対に許さないという態度を育てる。	A	・いじめに発展しそうな事実に対し、教員は迅速に対応し、解決に努めている。 ・生活ノートの活用や生活アンケートの結果を分析し、教員は教科や市民科の授業において「おもいやり」の心(姿勢)は何であるかを理解させるべく指導を組織的に行っている。 ・生活指導部会などに参加し、連携強化、情報共有に努めている。	・「いじめ」に対する真剣な取り組みをこれからも継続して「いじめ0」を徹底して、この項目の評価がオールAになるようにしてください。	・生徒会を中心に「いじめ0」運動を展開させ、生徒が自らを戒める心を育てる。
		B			
③	・全校体制で地域ボランティア活動に積極的に取り組む。 ・市民科や各授業等において適切に指導に取り組む。 ・一人一人の生徒に地域の一員であるという所属意識を育む。	A	・地域ボランティア活動には、全校83%の生徒が関わっている。 ・本校のボランティア活動が認められ、28年度品川区「社会を明るくする運動」において、本校生徒全員が表彰された。 ・また教員全員が、放課後、祝日等においても積極的に参加している。 ・地域(各町会長)からの高い評価の声をいただいている。	・地域に貢献するタイプのボランティア活動である「クリーンレンジャー+」(プラス)はとても素晴らしい取り組みだと思います。 ・地域ボランティア活動に取り組む生徒の人数が多くてとても良いことだと思う。	・生徒にボランティア活動の価値を再確認させる時間を確保する。 ・ボランティア精神の高揚のために、引き続き地域ボランティア活動を展開・拡大する。
		A			

A=よく当てはまる B=概ね当てはまる C=どちらかという当てはまらない D=当てはまらない

### 評価項目3 保護者・地域との連携

本校の基本的な考え方		(1)本校が求めようとしている連携の基本的な考え方と具体的内容 子供、保護者、地域から学校が信頼され、学校と家庭の役割分担が明確で、開かれた学校のための活動 ①情報の発信(学校から保護者・地域の方へ) ②人材の活用(地域・保護者参加による学習や教育活動) ③地域行事・PTA行事への参加協力 ④迅速・誠実な対応 (2)そのための今年度の基本方針 ①学年・学校たよりを充実させ、保護者・地域へ配布する。 ②地域参加型及び保護者参加型、諸機関参加型の教育活動の工夫と地域行事、PTA行事との連携を深める。 ③保護者・地域からの要望や問い合わせには誠意をもって迅速に対応する。 (3)重点的な実践項目 ①学校たより、ホームページの充実と家庭、地域への配布 ②保護者会、教育相談日、学校公開の実施と保護者との連携 ③市民科などの学習での地域人材の活用 ④地域行事、町会行事、PTA行事などへの協力と参加 ⑤不審者対応や交通安全対応での地域・保護者との連携			
評価指標	上段:取組指標	学校による自己評価		校区外部評価委員による評価	次年度に向けた校長の態度表明
	下段:成果指標	評価	評価の説明	自己評価に対するコメント	
①	・通用門前の掲示板を活用する。 ・ホームページを更新する。 ・毎月、学校便りを地域に配布	A	・通用門前の掲示、ホームページ更新、学校便りの地域への配布が定期的な更新されている。 ・通用門前の掲示は、担当者を中心に計画的に更新するとともに、掲示物はできるだけタイムリーなものにしている。 ・ホームページの更新は学校行事を中心に更新に励んだ。	・ホームページの更新は東海中学校の教育に対する真摯な姿勢をいろいろな立場の方々に丁寧に伝えていきます。このことは地域の学校としてとても大切なことなので高く評価します。 ・様々な行事を行い学校を公開していることは大変ありがたいことなのですが半面、部外者が入ってきてしまうこともあるのではないかと思います。この種の対策はどのように行っているのでしょうか。	・今後も通用門前の掲示板の活用と適時性のあるホームページの更新に努める。 ・受付時の確実な確認と不審者対応の訓練も避難訓練時のプログラム化を模索する。
	・地域や保護者に対して積極的に学校を開き、情報を発信し、東海中の理解への深化を求める。	B	・全学年を対象にしたゲストティーチャーによる市民科授業は計画的に行っている。		
②	・保護者・地域の方を招いたゲストティーチャー授業を実施する。 ・地域行事の手伝いなどを各学年ごとに行っている。	B	・ファイナンスパークに8学年保護者20名程が参加し、積極的に授業の進行に携わった。 ・PTA会員が一人一役という姿勢で学校行事に携わっている。 ・全学年を対象にしたゲストティーチャーによる市民科授業は年間計画に位置づけ、計画的に行っている。その一環として租税教室を実施した。	・ファイナンスパークの詳細な説明を聞かせていただき、大変素晴らしい企画と実践だと思いました。	・ゲストティーチャーによる講座を効果的なものにするための検証に努め、価値ある講座を構築する。 ・青物横丁まちづくり協議会役員による「青横の歴史」講話会の開催を継続し、生徒の帰属意識を高める。
	・学校は、保護者・地域の力を十分に生かした教育を進める。	B	・青物横丁まちづくり協議会役員による「青横の歴史」講話会を開催した。		
③	・地域行事に関する的確な情報を提供し、参加を呼びかける。 ・ボランティア活動では専用のTシャツやジャケットを着用する。	A	・地域の盛大な祭りに、たくさんの生徒が参加している。 ・地域行事には、見学などの参加だけでなく、太鼓をたたいたり、仮装行列に参加したり、運営者としても参加している。 ・83%の生徒がボランティアとして参加している。	・ボランティア活動では専用のTシャツやジャケットを着用していますが、ボランティア活動以外にも着用する機会を増やして地域にアピールしていただければ幸いです。 ・イベントのような一時的なボランティア活動だけでなく継続的なボランティア活動も取り入れていただければと思います。	・ボランティアグッズの効果的な活用を模索していく。 ・ボランティア活動を拡大するとともに、東海グループ(東海中・浅間台小・城南小・城南第二章)としての活動を具多化し、一貫教育実践校としての機能を強化する。
	・生徒や保護者が地域行事に積極的に参加し、地域とつながり、喜びや感謝の気持ちをもつ。	B	・毎回、Tシャツやジャケットの着用できる数量を確保した。 ・更なる参加者の増加が課題である。		

A=よく当てはまる B=概ね当てはまる C=どちらかという当てはまらない D=当てはまらない

### 評価項目4 環境整備・美化

本校の基本的な考え方		(1)本校の環境・美化に関する基本的な考え方と具体的内容 「心をはぐくむ美しい環境づくり」に努める。 ①校舎内外の整理整頓・清掃美化 ②校内掲示物の工夫 ③正しい言語環境 (2)そのための今年度の方針 ①教職員と生徒と保護者の協働による清掃活動の実践 ②掲示物の計画的な内容と配置、名文などの掲示 ③教師の日常的な正しい言語の使用及び指導の重視 ④学校ISOによる取り組みの実践 (3)重点的な実践項目 ①日常の清掃、整頓の励行(教職員・生徒) ②掲示板などの有効活用と工夫 ③校舎内外の安全管理(修理・修繕)			
評価指標	上段:取組指標	学校による自己評価		校区外部評価委員による評価	次年度に向けた校長の態度表明
	下段:成果指標	評価	評価の説明	自己評価に対するコメント	
①	・毎日の清掃活動を徹底する。 ・心を磨くふき掃除を実施する。 ・生活委員会の「水遣り」を確実に実施する。	B	・教師はきちんとねらいを提示して清掃を指導し、美化意識を高めている。 ・「ふき掃除」を適宜実施し、美化意識の高揚とともに心を磨く活動であることを認識させている。	・校庭の砂が昇降口や階段に持ち込まれるために清掃にはいろいろな対策がとられていることが分かり、環境美化に対する取り組みの一端を見ることができました。	・校舎内への砂の持ち込みを少なくするための改善策を構築する。 ・美化委員会を中心に生徒への働きかけを強化し、生徒の美化意識を高める。 ・心を磨く清掃活動を展開する。
	・校舎内にゴミやほこり、チリなどが落ちていない。 ・校舎周辺の花壇等が整備されている。	C	・各クラスや学年でも掃除をしているが、さらに美化に対する意識を高めたい。 ・定期的に用務主事が校舎内外を清掃しているが、校庭の砂の持ち込みを防ぐ工夫が必要である。	・例えば、校庭を人工芝にするとか、区へ要望することができないのか。	・区は本校校舎は全面改築の方向で検討はしているとの回答は得ている。人工芝化については区に要望していきたい。
②	・教室掲示物を適宜更新する。 ・教科や行事の活動が分かる廊下掲示物の工夫し、環境整備の一環であることを認識させる。	B	・定期的に更新されている。もう少し更新の回数が多くてもいい。教室前の廊下は、生徒の作品を1学期の間に3回ほど掲示し、学習内容が保護者に伝わるように工夫した。	・掲示板計画が立てられているとのこと、とても素晴らしいことだと思います。これからも継続して校内外の掲示活動を充実していただければ幸いです。	・環境整備を目的に、校内や教室掲示物を定期的に更新し、定期的に点検する。 ・教科の成果物である掲示方法の工夫をする。
	・環境整備を目的に、校内や教室掲示物が定期的に更新され、定期的に点検されている。	B	・掲示物計画が立てられ、担当者が責任をもって掲示物を貼っている。 ・各学年の掲示物は、生徒の普段の活動がわかるような作品を貼っている。		
③	・美化コンクールを実施する。 ・東海グループ共通のクリーンレンジャー(地域清掃活動)を実施する。	A	・美化コンクール時は、生徒は競って教室の美化に率先垂範している。 ・児童会生徒会合同会議を開催し、中共同理解をもって、地域美化を目的にした「クリーンレンジャー+」を実施した。	・「クリーンレンジャー+」は地域の環境美化だけでなく、東海グループの連携強化にも大いに貢献していると思いました。	・東海グループの連携を強化し、地域美化のための活動を実施し、生徒の美化意識を更に高める。 ・効果的な美化コンクールを実施する。
	・東海グループの連携強化し、地域美化のための活動を実施し、生徒の美化意識を高める。	B	・真に美化意識の高揚が見られたとは言えず、美化意識の高められる工夫が必要である。		

A=よく当てはまる B=概ね当てはまる C=どちらかという当てはまらない D=当てはまらない

## 評価項目5 いじめ防止に関する取組

本校の基本的な考え方		◎全校生徒一人一人に関する情報を全教職員が常に共有するとともに、生徒一人一人に対する観察眼をしっかりと身に付け、いじめは絶対に起こらないよう努める。 ◎市民科や各教科等の全教育活動を通じた心の教育を充実させるとともに、思いやりのあふれる各学級・学年の経営に努める。			
評価指標	上段:取組指標	学校による自己評価		校区外部評価委員による評価	次年度に向けた校長の態度表明
	下段:成果指標	評価	評価の説明	自己評価に対するコメント	
①	・毎朝、生活指導に関する情報交換を行う。 ・全教職員が共通理解のもと情報を共有し状況を把握している ・一人一人の生徒をよく観察し、変化を見逃さないようにする。	B	・生徒指導に関するケーススタディ研修会を不定期ではあるが行っている。 ・ベテラン教師や管理職からの指導は若手教員の生徒指導に対する効力になっている。 ・朝の打合せを活用し、生徒の情報交換を密に行っている。 ・日々変化する生徒の情報把握には困難さがある。	・OJTの一貫として計画的に生活指導の研修と具体的な実践がなされていることはとても良いことだと思います。 ・毎朝、全教職員が共通理解のもと情報を共有化し状況を把握するという「攻めの生活指導」が行われていることが分かり素晴らしいと思いました。	・一人一人の生徒をよく観察し、変化を見逃さないようにするために、情報共有の場を効果的に設置する。 ・OJTの機能を強く意識し、教員間の連携に励む。
	・保護者、地域からの情報を直ちに確認・対応する。 ・PTAとの連携を強化する。	B	・生活指導における情報交換を密にし共有するようになって、生徒指導がより組織的になってきている。 ・代表委員が中心となって動いた、いじめ根絶のバッジが9月から導入され、気持ち新たにいじめ防止の活動を進めている。 ・アイシグナルなどを使い、情報を集めようとしている。	・いじめ根絶のバッジの作成ならびに活用アイディアは画一的な指導が多い中でもとても素晴らしいと思いました。 ・取組指標ならびに成果指標ともに評価がBとなつていますが、少なくとも学校としての取り組みはA評価だと思います。	・地域での情報(噂話を含む)を拾い上げるためのネットワークづくりに励む(地域行事に積極的に参加する)。 ・関係機関との連絡、相談機会を増やす。 ・生徒会が作成した「いじめ根絶宣言」の生徒への浸透を強化し、遂行させる。
②	・いじめ防止に向け、保護者や地域と連携できる関係性を築く。	B	・アンケートは1学期に1回実施し、いじめのもとになる生徒同士のトラブルを早めに見つけて、解決することができている。 ・気になるアンケートについては、生徒に聞き取りを行い、問題を芽の時点で摘み取るようにしている。 ・アンケート3回の実施には至らなかったが、適宜聞き取り等をし、発展の防止と未然防止ができています。	・この種のアンケートは実施するだけでもいじめの抑止力としての効果があると思います。いじめに対する学校側の姿勢を示す具体的な方策の一つとも考えられます。継続していただけたらと思います。	・アンケートは1学期に1回実施し、いじめのもとになる生徒同士のトラブルを早めに見つけて、未然防止に努める。 ・万が一発生した場合は、組織をもって迅速なる解決に励む。
	・疑わしい事実はずぐに共有化する(朝の打合せ・職員会議)。 ・アンケートは、年3回実施する。 ・結果をもとに適切に対応する。 ・いじめの早期発見に努め、組織的な対応をするために、生徒アンケートなど様々な取組みを実施して、いじめ撲滅を図る。	B	・アンケート3回の実施には至らなかったが、適宜聞き取り等をし、発展の防止と未然防止ができています。		
③		A			

A=よく当てはまる B=概ね当てはまる C=どちらかという当てはまらない D=当てはまらない

## 評価項目6 学校独自の特色ある教育活動

本校の基本的な考え方		全教育活動を通じて生徒にリーダーシップとフォロアーシップを育てる。 ・礼法指導、ふき掃除等の実践を通し、生徒一人一人の心を育てるとともに、生徒の美化意識と奉仕の意識を高める。 ・ボランティア活動に対する一人一人の意識をさらに高揚させる。 ・オリンピック・パラリンピック教育を充実させ、生徒一人一人にオリンピック・パラリンピックについての意識を高めていく。また、運動の合理的実践を通して生涯体育の重要性を理解させていく。			
評価指標	上段:取組指標	学校による自己評価		校区外部評価委員による評価	次年度に向けた校長の態度表明
	下段:成果指標	評価	評価の説明	自己評価に対するコメント	
①	・運動会や音楽祭等の行事を生徒の主体的な行動を確立する。 ・様々な活動で、リーダーシップ等を深く考えさせる。 ・生徒にリーダーシップとフォロアーシップの大切さを学ばせる。	B	・各種の学校行事に対し、年々生徒が主体的に企画運営が組織的になされてきた。生徒自ら仕事を率先して探し活動する姿が目立った。 ・生徒が主体的に責任感をもって運動会を企画し運営し成功をおさめた。地域や保護者の方々に感動を与えた。 ・一部生徒の中には指示待ち傾向もあることから、主体性の向上がこれからの課題である。	・生徒の自己実現の具体的な場面の一つとしての学校行事をこれからも企画・運営していただけたらと思います。	・全ての学校行事を「主役は生徒」ということを明確に位置づけ、主体性の育成に励む。 ・生徒の中には指示待ち傾向もあるので、主体性の向上に励む。
	・7年生:福栄会への敬老の日のプレゼントや手紙配達 ・8年:地域美化清掃 ・9年:介護施設での合唱 ・全校生徒と全教職員による地域行事への積極的参加(全員1回以上の参加)100%にする。	A	・やらされているのではなく、喜んで積極的にボランティア活動に楽しく取り組んでいる。 ・年間ボランティア活動参加生徒述べ288名(全校生徒83%) ①福栄会祭り76名 ②第一地区夏祭29名 ③第二地区夏祭り41名 ④宿場祭り43名 ⑤防災訓練ポンプ隊17名 ⑥合運動会33名 7.ドッジボール大会49名の生徒が参加。 ・教職員はボランティア活動ごとに分担して参加。(100%)	・全職員によるボランティア活動の実施には様々な制約があると思います。そのような中で今回、実施できたことはとても画期的なことだと思います。 ・ボランティア活動には必ず教員の引率が必要です。実施日が休日のことも多いと思います。生徒のためとはいえ、頭が下がる思いです。	・今後も、ボランティア活動の意義と価値について広く伝えるとともに、ボランティア活動に参加する生徒を増やす。また、その機会も開拓する。
③	・オリパラ出場選手の招聘。 ・種目の体験 ・オリパラコーナーの設置等。	B	・各教科、市民科、体育的行事の中にオリパラ教育を関連付け活動推進する。 ・オリンピック等を招へいた授業 9月ハンドボール出前授業 11月オリンピックによるバレーボール授業 3月ブラインドサッカー体験授業	・市民科においてはオリンピックならびにパラリンピックの教育を関連付けるために具体的に左の欄にあるような指導をしているとの説明を受けました。今後の成果を期待します。 ・海外からのオリンピックならびにパラリンピックの参観者に対する通訳などのボランティア活動といったかわり方もできるのではないかと思います。	・文化創造領域で、「運動・スポーツの文化的特徴」を取り上げ、オリパラへの興味関心を高める。人間関係形成領域で、地域ボランティアとして活動できるよう、コミュニケーション能力の育成に努める。 ・将来設計領域では、オリパラ終了後の日本経済環境等を考えさせることで、進路計画や人生設計を立てる能力を育成する。
	・オリパラ教育を推進することで、外国に興味をもち、異文化理解や交流の重要性に気付かせる。	B			

A=よく当てはまる B=概ね当てはまる C=どちらかという当てはまらない D=当てはまらない

## 校区外部評価委員より（その他、お気づきの点などがありましたら自由にお書きください。）

・今回の学校評価の各項目を生徒向け、保護者向けに表現したものを作成し、全生徒、全保護者にアンケートを取り集約すると多角的な学校評価ができ、次年度への参考にもなり良いのではないかと思います。

・学校選択制で地域の行事に生徒が参加しにくい場合があるという話も聞きますが、どの子ども同じ品川区の子供です。学校選択制でどの地域に行ったとしても、その地域の方々が温かく迎えていただければと思います。

・「いじめは存在する。」という前提に立っていじめ防止の対応が取られているところがとても良いと思います。さらに、いじめに関するネガティブな情報も隠さずにオープンにする学校の姿勢はとても信頼できます。

・ICTの学校教育への導入が進んでいます。授業での活用について具体的な説明がありました。東海中学校ならではの取り組みに期待しています。